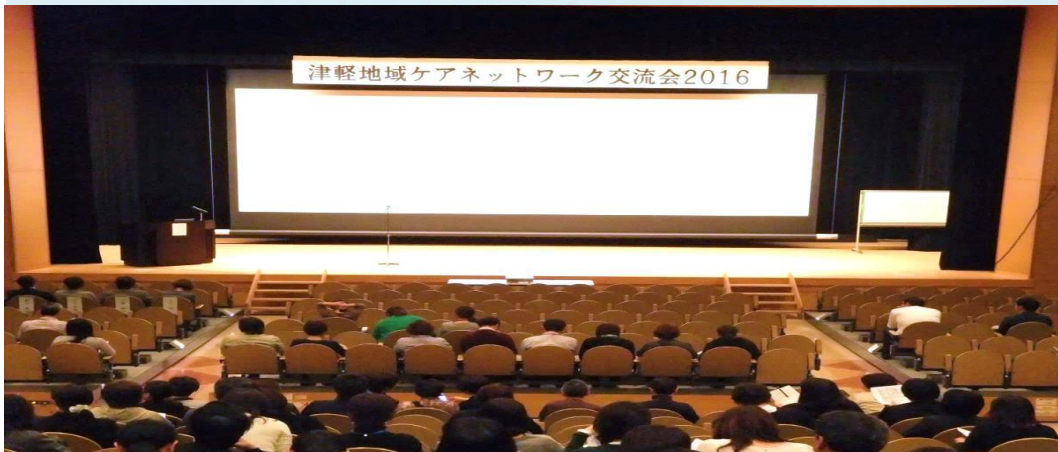


津軽地域ケアネットワーク定例会NEWS



発行日：H28年12月7日

開催日時
平成28年10月15日
13:30～17:00

会場
岩木文化センター あそべる
岩木中央公民館

津軽地域ケアネットワーク交流会2016 開催

H28年10月15日(土)13:30～17:00、岩木文化センター及び岩木中央公民館において、津軽地域ケアネットワーク交流会2016を開催しました。

交流会は第一部 情報提供 テーマ「津軽地域のがんについて」 第二部 グループワーク テーマ「療養場所と地域連携」の2部構成で、開会に先立ち、中南地域県民局健康福祉部（弘前保健所）部長 山中 朋子先生、弘前大学大学院保健学研究科地域保健医療教育研究センターセンター長 丹藤 雄介先生のお二人からご挨拶を頂きました。またファシリテーターとして青森県立中央病院がん相談支援センター 飯村 健治先生を迎え、交流会の中でまとめや補足をして頂きました。



総勢221名の方に参加して頂き、青森県のがんに対する関心の高さが窺えました。

第一部

講師に青森県立中央病院がん相談支援センター認定がん専門相談員 成田 富美子先生を迎え、津軽地域のがんについて統計から見る現状とがん専門相談員として意思決定支援の留意点やがん患者の抱える困難について、用語の解説も交えながら情報提供して頂きました。

第二部

療養場所と地域連携をテーマに26グループに分れ、PEACE(症状の評価とマネジメントを中心とした緩和ケアのための医師の継続教育プログラム)を参考にし、予後2, 3ヶ月と診断を受けている男性と家族へどのような支援を行うのか多職種が入り混じった事例検討が行われました。

また、今回も「どこでもシート」を使用し、グループメンバー全員が参加しやすく、また、討議した内容を会場に掲示して参加者全員が閲覧できるような工夫をしました。

グループワーク終了後、5グループが個性豊かな事例検討の発表を行いました。

全体会では弘前市医師会 梅村 芳文先生から、家族は第二の患者である。その事を忘れずに支援して欲しいとコメントを頂きました。ファシリテーター 飯村 健治先生からは、がんに関する事すべてがマイナスではなく家族の絆が一層強くなるきっかけになる事もある。そのような部分も意識して支援していく必要があると助言して頂きました。

短命県と呼ばれる青森の中で、多職種が入り混じった交流会を通してがんについて考え、議論したことで多くの結びつきと課題が浮き上がったのではないのでしょうか。

最後に津軽地域ケアネットワーク葛西 孝幸会長より参加者の皆様へ感謝の意が表され、今後の多職種連携が深まることを祈念する事を結びに津軽地域ケアネットワーク交流会2016が締めくくられました。

津軽地域ネットワーク交流会2016

共催: 中南地域県民局地域健康福祉部保健総室(弘前保健所)、一般社団法人弘前市医師会、一般社団法人弘前歯科医師会、弘前薬剤師会、青森県介護支援専門員協会津軽支部会、弘前大学大学院保健学科研究科地域保健医療教育研究センター

後援: 一般社団法人南黒医師会、南黒歯科医師会、青森県訪問看護ステーション連絡協議会中弘南黒支部、助けあいたい浪岡チームフクロウ、黒石けっぱるケアマネジャーの会

(順不同)

津軽地域ケアネットワーク事務局: 黒石病院 地域医療支援センター

TEL 0172-52-2121

FAX 0172-59-1631